

講壇点滴

聖霊によつて

使徒言行録一章 一〜五節節

牧師 姜 徑 米

使徒言行録に語られているのは、教会がどのように誕生し、どのように歩んでいったかです。そのことが、何人かの使徒たち、伝道者たちの働きを描くことによつて語られています。「使徒たちの言行録」という呼び方はそこから来ているのです。

使徒言行録の著者は、ルカ福音書の著者と同じ人、ルカだと考えられます。ルカ福音書と使徒言行録を合わせて「ルカ文書」と呼んだりもするのです。ルカは、この一、二節で、自分が先に書いた第一巻であるルカ福音書の内容をまとめています。イエス・キリストの行いと教えの始めから、天に上げられた日、昇天までのことを書き記した。この世に來られた神の独り子主イエスが、様々な教えを語り、み業を行われた、そして捕えられ、十字架につけられて殺されたこと、しかし神様が主イエスを三日目に死者の中から復活させてくださったこと、それらの出来事を経て、主イエスが天に昇られたことまでを、ルカは第一巻である福音書に書き記したのです。

使徒言行録はそれに続く第二巻です。福音書で語られた主イエス・キリストのみ業と教え、それによつて実現された神様の救いの恵みが、これから語っていく使徒言行録の前提となつていのです。ですから、使徒言行録

を読んでいく私たちは、ルカによる福音書との結びつきをいつも意識していなければなりません。主イエスのみ業と教え、十字架の死と復活と昇天を切り離して使徒言行録を読むことはできないのです。

この書を読み、味わつていくことのなかで、救いにあずかり、主イエスに結び合わされて生きる者とされた人々が、教会という群れへ集められ、そこからみ言葉を宣べ伝えていき、その働きによつて主イエスの福音が広まり、多くの人々が主イエスを信じて共に歩むようになり、信じる者の群れである教会が生まれ、育つていったということを経験したいです。

私たちは、主イエスが目に見える姿で現れてご自分が生きておられることを示してください。その恵みを見ているわけではありません。そういう恵みを与えられたのは、主イエスの復活の後のあの四〇日を体験した使徒たちだけです。その後、主イエスは天に昇られ、神の右に座しておられるのです。

しかし私たちは、聖霊のお働きのもとにあります。聖霊は、天に昇られた主イエスに代つて私たちを導き、主イエスによつて成し遂げられた救いのみ業を受け継ぎ、前進させてくださるのです。その聖霊は、私たちの心の目を開いて、聖書を悟らせてください。

聖書に語られている主イエス・キリストの十字架の死と復活が、この自分のためであり、神様が独り子の命を与えてくださるほどに私を愛していただくさき、主イエス・キリストによる救いにあずからせようとしていてくださるのだということを、私たちはこの聖霊のお働きによつて確信させられるのです。

(三月二六日 公同礼拝)

第五主日 (四月三〇日) 公同礼拝

「天国の選別」 高橋和人牧師

詩編 七三・二一〜二八

マタイ 一三・四四〜五二

五月講壇一覽

第一主日 (五月七日) 公同礼拝

「知識の改革」 高橋和人牧師

詩編 二七・七〜一〇

マタイ 一三・五三〜五八

第二主日 (五月一四日) 公同礼拝

「十二人の使徒」 姜 徑 米 牧師

詩編 三七・三〇、三一

使徒言行録 一・二〜二六

第三主日 (五月二二日) 公同礼拝

「誓いの愚かさ」 高橋和人牧師

ゼカリヤ 八・一六、一七

マタイ 一四・一〜二二

第四主日 (五月二八日)

ペンテコステ・聖霊降臨日礼拝

「聖霊による喜び」 高橋和人牧師

イザヤ 四二・一〜九

テサロニケI 一・二〜一〇

